**タイトルは中央揃えフォントサイズ14ポイントボールド体**

**―サブタイトルは改行して中央揃え―**

**Title in English: Capitalize All Words Except for Articles, Conjunctions, and Prepositions Fewer Than Four Letters**

東海 太郎

外国語教育メディア大学

三重 花子

外国語教育メディア大学大学院生

TOKAI, Taro

University of Language Education and Technology

MIE, Hanako

Graduate Student, University of Language Education and Technology

**Abstract**

Insert your abstract here, approximately 200 words in English. Use Times New Roman font size 12. Insert your abstract here, approximately 200 words in English. Use Times New Roman font size 12. Insert your abstract here, approximately 200 words in English. Use Times New Roman font size 12. Insert your abstract here, approximately 200 words in English. Use Times New Roman font size 12. Insert your abstract here, approximately 200 words in English. Use Times New Roman font size 12. Insert your abstract here, approximately 200 words in English. Use Times New Roman font size 12. Insert your abstract here, approximately 200 words in English. Use Times New Roman font size 12. Insert your abstract here, approximately 200 words in English. Use Times New Roman font size 12. Insert your abstract here, approximately 200 words in English. Use Times New Roman font size 12. Insert your abstract here, approximately 200 words in English. Use Times New Roman font size 12. Insert your abstract here, approximately 200 words in English. Use Times New Roman font size 12. Insert your abstract here, approximately 200 words in English. Use Times New Roman font size 12.

**1. 原則**

 外国語教育メディア学会中部支部研究紀要に論文を投稿する際には，原則としてこのテンプレートを使用する。最初のページのヘッダーで，該当するいずれか一つを残して，論文カテゴリーを明確にしておく。本文で使用する言語に関わらず，200語以内の英文の要約を付けるものとする。ここに記述のない事項については，APAマニュアル（第7版）に従って執筆する。

**1.1 所属の書き方**

 所属は必ずLETに届け出ているものを記載する（学生会員であれば，学生としての所属を，個人会員であれば，研究者／教員としての所属を記載すること）。届け出ている所属以外を論文中に書く場合は，学会ホームページ上で新しい所属に変更した上で行う。所属の併記はしない。非常勤の場合でも（非）などとは記載しない。大学院生の場合「○○大学大学院生」，また，英語では，Graduate Student, \*\* Universityなどとし，修士課程と博士課程の区別はしない。

**1.2 書式注意点**

 本文の太字，余白，文字フォント，セクション番号の打ち方，インデントなど，すべての設定をこのテンプレートに従い変更しないこと。特に，別ファイルで用意した原稿を貼付ける場合には，形式が変更されないように注意する。

 採用された原稿ファイルは，そのままB5版で印刷される。余白，書体，文字サイズ，1ページあたりの行数等はこのテンプレートファイル１にしたがうこと。書体は和文の場合「明朝体」，英文の場合「Times New Roman」とする。和文論文の場合，文字の大きさは10.5ポイント，1行40字で35行とする。英文論文の場合，文字の大きさを12ポイントとする。採用が決定された段階で，紀要掲載費を納入する。紀要掲載費は1編10ページまで，10,000円とし，ページ超過の場合には2ページにつき5,000円とする。

 日本語の句読点は，「，」と「。」にする。英数字には半角を使用し，全角は原則として使用しない。ページ番号は入れない。提出時に形式が守られていない場合には，提出を受け付けない場合や，編集委員会にて書き直しを求める場合がある。また，査読にて掲載可能となった場合でも，書式不備が修正されない場合には，編集委員会の判断で掲載を見送ることがある（編集規定第6条4項および投稿規定第4条に基づく）。

**1.3 セクション番号の付け方**

 一番大きなレベルの見出しのあとにはピリオドを入れる（例：1. はじめに）。次のレベル以下の見出しのあとにはピリオドは入れない（例：1.3 セクション番号の付け方）。レベルは原則として3つまでとする（例：1.3.1）。それぞれの数字のあとには半角1文字分のスペースを入れる。ボールド体の有無，空行の有無，フォントサイズなどは，このテンプレートに従うこと。次の見出しを作る場合は，図や表がセクションの最後に入った場合は，2行の空行を設ける。

**2. その他のガイドライン**

**2.1 引用方法**

 本文中での引用方法はAPAに基づく。和文の場合は前後の括弧を全角（）で記載する。例えば，このように（Bezzazi, 2018; 鬼田他, 2019; Nishimura & Fukuta, 2015）である。英文の場合はすべて半角括弧 () となる。括弧内はアルファベット順で記載する。著者が2名以上の場合は，高橋・柳（2015）というように，間を中黒・で区切る。著者が3名以上の場合は，初回の引用を含め，鬼田他（2019）のようにする（APA第7版 p. 266に基づく）。

**2.2 表**

 表は本文中に入れ，通し番号をつける。「表X」の表示に1行を取り，次の行に表のタイトルを記述する。英文では表のタイトルをイタリック体にする。表中の文字や数字は小さすぎると，印刷時に見にくくなってしまうため注意する。表の後に次のセクションが続く場合は，2行の空行を設ける。

表1

例としての架空のテストの結果

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| テスト | 母語話者 | 上級者 | 中級者 |
| リーディング | 98.89 | 79.38 | 70.76 |
| リスニング | 97.56 | 75.06 | 53.62 |

**2.3 図**

 図は本文中に入れ，通し番号をつける。「図X」の表示に1行を取り，次の行に図のタイトルを記述する。英文では表のタイトルをイタリック体にする。なお，図は原則として白黒印刷されるため，あらかじめモノクロ化すること。カラーの図版を白黒印刷した結果について編集委員会はその責を負わない。また，印刷時には，原稿も縮小されるので，軸についている数字や文字も見やすい大きさにそろえておく。図の前後は1行あける。図の後に次のセクションが続く場合は，2行の空行を設ける。

図1

例としての架空の棒グラフ

 なお，図表を他の文献資料から転載する場合，転載許可の要不要を確認すること。転載許可が必要な場合は，投稿までに，投稿者の責任において，許可を得ておくこと。

 写真等を掲載する場合は，投稿者がスキャン等のデジタル化処理をし，原稿中の適切な場所に適切な大きさで配置する。完成は白黒印刷となるので，カラー写真についてはあらかじめモノクロ化してあることが望ましい。カラー写真を白黒印刷した結果について編集委員会はその責を負わない。

図2

例としてのモノクロ写真



**3. 用語上の注意**

**3.1 倫理的配慮**

 倫理的配慮については，投稿者自身の責任において実施すること。詳しくはAPA第7版を参照のこと。

**3.2 匿名性の確保**

 投稿時には著者が特定できるような書き方をしないように注意を払う。例えば，自分がこれまでに行った研究を引用する場合は，本文中には著者（2010）のように記載し，参考文献でもリストの最後にまとめて挙げる。論文が採択された場合は，すべての情報を正しく記載して，最終原稿を提出する。

**謝辞**

 謝辞がある場合は，本文の直後に記載する。ただし，個人を特定できるような謝辞は投稿時には入れないか，匿名化しておき，最終原稿の提出時に追加する。

**注**

1. 注（Notes）は脚注を用いず，すべて本文と参考文献の間にまとめて記載する。参考文献（References）は，論文の最後に，著者名のアルファベット順に一括して挙げる。

本稿（の一部）は，20XX年X月X日にXXXXXにて開催されたXXXXX学会での口頭発表に基づくものである。（すでに口頭発表した内容を含む場合は，その旨をこのように記す）

**参考文献** オレンジ色の注意書きは投稿時には消してください

Andon, N., & Leung, C. (2014). The role of approaches and methods in second language teacher education. In S. B. Said & L. J. Zhang (Eds.), *Language teachers and teaching: Global perspectives, local initiatives* (pp. 59–73). Routledge. https://doi.org/10.4324/9780203795156 英文で筆者名は「姓＋名イニシャル」だが，編著者名は「名イニシャル＋姓」の順序になる 英文で編者が複数名の時には，(Eds.) とする。編者が2名の時は，＆の前にカンマをつけない

Bezzazi, R. (2018). The effect of passage analysis on building English sentences. *The Asian Journal of Applied Linguistics, 5*(2), 230–239. https://caes.hku.hk/ajal/index.php/ajal/article/view/560 DOIのついてないオンラインジャーナルの場合はURLを記載

Ellis, R. (1994). *The study of second language acquisition*. Oxford University Press.（エリス, R. 金子朝子（訳）（1996）．『第二言語習得序説―学習者言語の研究―』研究社出版）

Fukuta, J. (2016). Effects of task repetition on learners’ attention orientation in L2 oral production. *Language Teaching Research, 20*(3), 321–340. https://doi.org/10.1177/1362168815570142 号数のある雑誌では省略せずカッコ内に

石川慎一郎 (2013)．「ICNALEを用いた中間言語対照分析研究入門―日本人学習者の『特徴語』を再考する―」『英語教育』（大修館書店）, 61(13), 64–66.　和文で「　」の中でもう1回「　」を入れるときは『　』になる

鬼田崇作・天野修一・榎田一路・草薙邦広・森田光宏・阪上辰也・高橋有加・田北冬子・達川奎三・上西幸治 (2019)．「広島大学英語Can-Doリストの試行的運用」*Annual Review of English Language Education in Japan, 30*, 287–302. https://doi.org/10.20581/arele.30.0\_302 参考文献リストにおいては，著者が20名以内の場合は全員記載する 21名以上では， 最初の19名 . . . 最後の1人 とし，& は使用しない（APA第7版 p. 286およびp. 317に基づく） 和文では，姓名の間にスペースを入れない

草薙邦広 (2018)．「外国語の文法知識における一元性の検証―文法性判断の正答率・反応時間・主観的変数を対象に―」名古屋大学国際開発研究科博士論文 名古屋大学学術機関リポジトリ http://hdl.handle.net/2237/00027747

久島智津子 (2010)．「オンライン掲示板を利用したライティング―前投稿者のライティングは後続のライティングにどのような影響を及ぼすか―」『言語文化論叢』（千葉大学）, 4, 79–86. https://opac.ll.chiba-u.jp/da/curator/900066732/ 和文では，年号のあとのピリオドは全角

Mikami, H. (2016). *Readiness, language contact, and oral performance development during a study-abroad program* [Doctoral Dissertation, Nagoya University]. Nagoya Repository. http:// hdl.handle.net/2237/25614

Nishimura, Y., & Fukuta, J. (2015). Processing efficiency of L2 collocations in sentence comprehension: From a self-paced reading task for Japanese EFL learners. *LET Journal of Central Japan, 26*, 63–74. https://doi.org/10.20656/letcj.26.0\_63 英文で著者が複数の場合，&の前にカンマ

Perry, F. L. (2017). *Research in applied linguistics: Becoming a discerning consumer* (3rd ed.). Routledge. 英文では，版はカッコ内に 出版社の所在地名は記載しない（APA第7版 p. 295に基づく）

澤田茂保 (2020)．「英語の応答形式について―TOEICの応答問題を分析する―」『言語文化論叢』（金沢大学）, 24, 1–30. http://doi.org/10.24517/00057381 定期刊行物は誌名だけで特定できない場合のみ，（　）で刊行所（学会・大学・出版社）を併記

高橋美由紀・柳善和（編著）(2015)．『小学校英語教育授業づくりのポイント』ジアース教育新社 和文で複数の著者を記載するときはナカグロ・を使用

投稿者本人による文献は，投稿者自身の責任で，以下のように参考文献一覧から外しておいてください。匿名性確保のため論文のタイトルは記載しないでください。

著者 (2010a).

Author (2010b).

著者・共著者1 (2014).

共著者2・共著者1・著者 (2018).